

## 授業実践（詳細版）

「授業実践（詳細版）」の内容は、以下のとおりです。

- 1 単元設定の理由
- 2 単元目標
- 3 単元計画
- 4 **本単元で引き出す「三つの学び」の姿と支援の方向性（※1）**
- 5 事例対象児への授業づくりの実際
  - (1) 事例対象児の本単元に係る実態
  - (2) 事例対象児の単元目標
  - (3) 事例対象児の焦点を当てた授業の目標及び評価規準
  - (4) **焦点を当てた授業の展開（※2）**
  - (5) 環境設定（及び役割分担）
  - (6) 焦点を当てた授業の評価
    - ア 事例対象児の授業の目標について
    - イ 事例対象児への支援の手立てについて
- 6 単元の評価
  - (1) 単元目標について
  - (2) 単元を通した児童生徒の成長について
- 7 授業づくりを終えて

## 【※1について】

「3 単元計画」で示した主たる学習活動ごとの「重視する学びの姿」について、「子どもの思考」「学びの姿」「支援の方向性」を示しています。

- ・「子どもの思考」…引き出したい子どもの思いや考え
- ・「学びの姿」…補助資料1の該当する「学びの姿」
- ・「支援の方向性」…補助資料2の「B 単元計画」の該当するポイント（「B－（小文字アルファベット）－（数字）」）と考えられる支援方法

## 【※2について】

焦点を当てた1単位時間の授業の展開について、「学習活動」「重視する学びの姿」「支援の手立て」を示しています。

- ・「学習活動」…子どもの活動内容
- ・「重視する学びの姿」…それぞれの活動内容における、引き出したい具体的な子どもの姿
- ・「支援の手立て」…「重視する学びの姿」を引き出すための具体的な支援の手立てと、補助資料2の「C 授業計画」の該当するポイント（「C－（小文字アルファベット）－（数字）」）

【中学部 3年】  
単元「暑中見舞いを出そう」

実施期間：令和3年7月2日～9月8日（全9時間）

## 1 単元設定の理由

本学級は、男子4名、女子2名、計6名で構成されている。生徒のコミュニケーションに関する実態は様々であるが、イラストや写真など視覚的な手掛かりのある教材・教具に興味・関心を持ちやすく、見通しの持てる制作活動等においては、個人差はあるものの、ある程度集中して取り組んでいる。これまで、単元「感謝の気持ちを伝えよう」において、職場体験学習でお世話になった職場の担当者にお礼の手紙を書いたり、家族を含めた身近な人に手作りの作品をプレゼントしたりする活動を通して、相手を意識しながら自分の思いを伝えようという気持ちが育ってきている。一方で、自ら課題を見付け、最後まで粘り強く課題解決に取り組むという経験は少なく、課題である。

本単元では、暑中見舞いを取り上げる。暑中見舞いは、社会の慣習の一つであり、年賀状と同様に、イメージしやすい活動である。送る相手への文章を自分で考えたり、定型文の中から選んだりして通信面を作成することは、これまでに身に付けた言語能力を生かすことができる。また、はがきの紙面の枠内に、文言や絵などを自由にレイアウトできることから、生徒の実態に応じて活動を設定することが可能である。さらに、タブレット端末を用いて、「アプリを活用し、自分の伝えたい内容に合う言葉を選んで作成できる」「容易に書き換えたりやり直したりできる」「大きさや配置を自由に変更できる」「データを保存して蓄積でき、必要なときにすぐに取り出して作成できる」などの利点を生かすことで、生徒が試行錯誤しながら取り組むことができる。そして、作成した暑中見舞いの通信面を友達同士で見合ったり、全体の場で一人一人が紹介したりする活動を設定することにより、互いに良い点や改善点を見付けることのできる体験となる。このような体験を通して、教師や友達の意見を聞いたり参考にしたりしながら、粘り強く丁寧に取り組む態度を育てたいと考え、本単元を設定した。

## 2 単元目標

- 暑中見舞いについて知り、タブレット端末を使って作成する。（知識及び技能）
- 友達や教師の意見を聞きながら、自ら考えて活動する。  
（思考力、判断力、表現力等）
- 暑中見舞いを受け取った人（受取人）に喜んでもらえるように、粘り強く作成しようとする。  
（学びに向かう力、人間性等）

### 3 単元計画

学習活動	重視する学びの姿			時数
	主	対	深	
1 暑中見舞いを出すために、はがきを買いに行こう (1) 転勤した先生から届いたはがきを見る。 (2) 暑中見舞いについて知る。 (3) 送る相手や内容を考える。 (4) はがきを買いに行く。	◎	○		2
2 暑中見舞いの通信面を作成しよう (1) タブレット端末の使い方を知る。 (2) <b>通信面を作成する。</b> ・2回繰り返す(2回目) (3) <b>通信面を仕上げる。</b>	◎	○	○	5 ( <b>焦点を当てた授業 その4・5</b> )
3 暑中見舞いを出しに行こう (1) 暑中見舞いの宛名面を書く。 (2) ポストに出しに行く。	○			1
4 活動を振り返ろう (1) ビデオメッセージを視聴する。 (2) 今後、はがきを送る機会があることを知る。	○		○	1

※太字は、焦点を当てた授業を示す。

### 4 本単元で引き出す「三つの学び」の姿と支援の方向性

学習活動1：暑中見舞いを出すために、はがきを買いに行こう	
子どもの思考	[主体的な学び] ・はがきをもらってうれしいな。
学びの姿	補助資料1：興味・関心や期待感を持つ
支援の方向性	補助資料2：[B-a-②] ・転任した教師からはがきを送ってもらう。
子どもの思考	[対話的な学び] ・みんなは誰に送るのかな？どんな内容にするのかな？
学びの姿	補助資料1：互いの活動を見合う
支援の方向性	補助資料2：[B-b-②] ・教師と送る相手を相談したり、友達が誰に送るのか聞いたりする場面を設定する。
学習活動2：暑中見舞いの通信面を作成しよう	
子どもの思考	[主体的な学び] ・どんな内容にしようかな？
学びの姿	補助資料1：目標や目的意識を持つ

支援の方向性	補助資料2：[B-a-④] ・通信面を作成するポイントが分かるように示す。 ・様々なパターンの見本を提示する。
子どもの思考	[対話的な学び] ・〇〇さんのイラストかっこいいな。教えてもらおう。 ・文字を大きくしたらいいのかな？
学びの姿	補助資料1：教師や友達とやり取りをする
支援の方向性	補助資料2：[B-b-②] ・選んだデザインや撮影した写真、自分で考えた文など、工夫が見られるところを紹介する場を設ける。 ・生徒から質問をしたり、教師から意見を聞いたりする場を設ける。
子どもの思考	[深い学び] ・どうしたらもっと良くなるかな。
学びの姿	補助資料1：課題解決に向けて活動する。
支援の方向性	補助資料2：[B-c-②] ・試行錯誤しながら取り組めるように、タブレット端末のアプリを使う。 ・自己評価を行う場を設ける。
学習活動4：活動を振り返ろう	
子どもの思考	[深い学び] ・タブレット端末を使って、家でも作りたいな。
学びの姿	補助資料1：課題を見付ける
支援の方向性	補助資料2：[B-c-③] ・達成感が味わえるよう、暑中見舞いを受け取った教師から返事を送ってもらう。 ・暑中見舞い以外のはがきを送る機会について話題にする。

## 5 事例対象児 B さんへの授業づくりの実際

### (1) B さんの本単元に係る実態

- 学級内の自分の役割は、最後まで責任を持って果たしている。教師からの指示を聞いて、行動することはできるが、活動の意味やルールを理解しないまま取り組むことで、行き詰まってしまうことがある。指先を使った細かな作業は苦手である。
- 友達に対して積極的に関わることは少ない。楽しみにしていることや楽しかったことなどは、自分から教師に伝えるが、困っていることは伝えられずにいることがある。また、集団活動においては、お楽しみ会などで司会を担当することがある。
- 自分で考えて工夫したり、最後まで集中して取り組んだりすることは少ないが、やるべきことが明確で、見通しが持てると、落ち着いて活動に取り組もうとする。

### (2) B さんの単元目標

- タブレット端末とはがき作成アプリ「かんたんポスカ」の使い方が分かり、手順書

を確認しながら自分で操作する。 (知識及び技能)

○友達の作品を参考にしたり、教師の意見を聞いたりしながら、自分で工夫して通信面を作成する。 (思考力、判断力、表現力等)

○送る相手を意識し、試行錯誤しながら暑中見舞いを作成しようとする。 (学びに向かう力、人間性等)

(3) Bさんの焦点を当てた授業の目標及び評価規準 (4・5/9時間)

タブレット端末を使って、工夫しながら通信面を作成する。

・タブレット端末の使い方が分かり、操作している。 (知識・技能)

・教師に助言を求めたり、意見を聞いたりしながら、通信面を作成している。 (思考・判断・表現)

・受取人に喜んでもらえるように、時間いっぱい作成しようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)

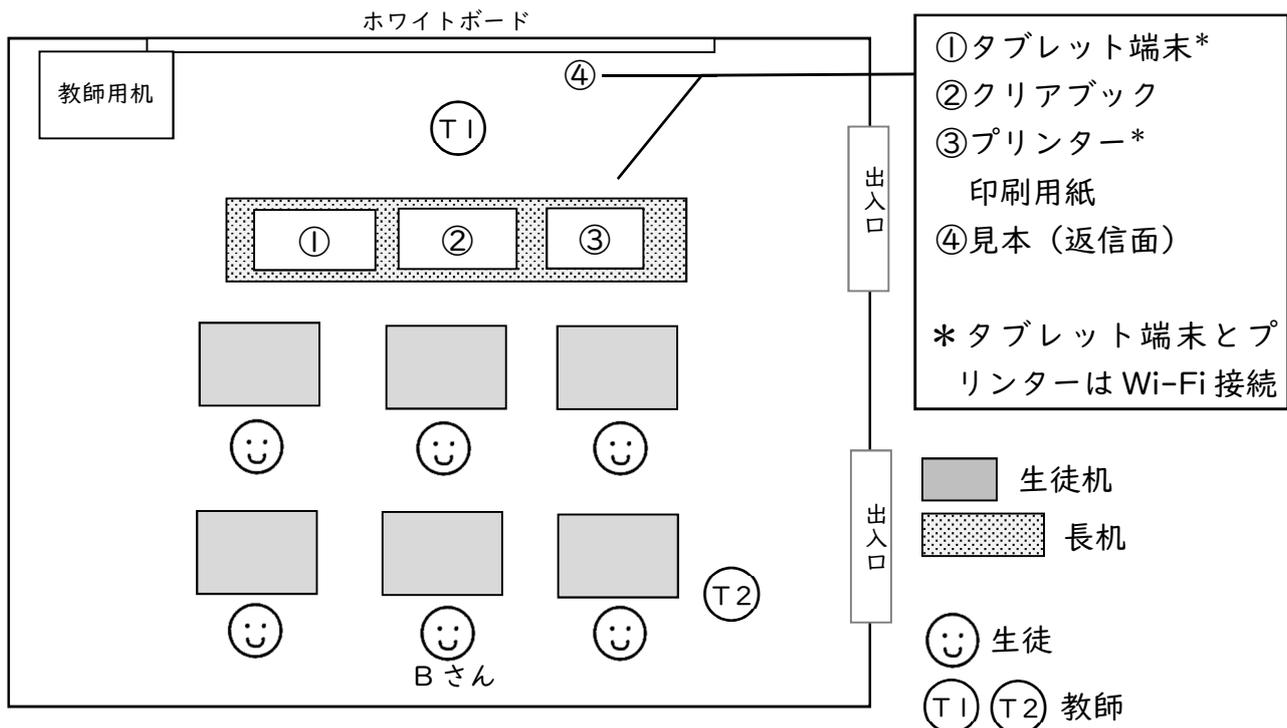
(4) 焦点を当てた授業の展開

※「支援の手立て」の下線部は、児童生徒の意識を向けたいポイントを示す。 ★Bさんへの支援

学習活動	重視する学びの姿	支援の手立て
1 本時の活動内容を知る。	主：本時の目当てが分かり、活動への見通しを持つ。	・個々の目当てを提示する。 [C-a-①]
2 通信面を作成する。 (1) 作成内容を考える。 ・文面 ・イラスト ・写真 ・色合い (2) レイアウトする。 (3) 教師の意見を聞く。 (4) 意見を参考にし、再度通信面を考える。	主：書く内容を考えたり選んだりしながら、取り組む。  対：困ったときに教師に質問したり、友達の様子を参考にしたりして、解決する。  対：教師に通信面を見せ、工夫したところを伝えたり、改善点を聞いたりする。  深：受取人に喜んでもらえるように、試行錯誤しながら取り組む。	・通信面を作成するときの <u>ポイント</u> を確認し、数種類の見本を示す。 [C-a-④] ・アプリ「かんたんポスカ」の <u>使い方や手順書</u> 等を提示する。 [C-a-②④] ・ <u>互いの活動</u> を見合わせる座席配置にする。 [C-b-③] ★表情や行動を観察し、そばに行く、声を掛けるなど、質問しやすい状況を作る。 [C-b-①] ★ <u>工夫点</u> を質問したり、 <u>良いところや改善したらよいところ</u> を伝えたりする。 [C-b-①]
3 完成した通信面を披露する。	対：自分なりの表現で考えや思いを伝える。	★ <u>送る相手</u> を意識するような言葉掛けや取り組む姿勢に対する称賛をする。 [C-c-⑤] ・実態に応じた質問で考えを引き出したり、代弁したりす

4 次時の活動内容を 知る。	対：友達のはがきの良さに気付く。  主：次時の活動に見通しを持つ。	る。 [C-b-②] ・工夫した点に気付けるように、大型テレビに映す。 [C-b-⑥⑦] ・暑中見舞いを出しに行くことに気付くような発問をする。 [C-a-⑥]
-------------------	---	--

## (5) 環境設定



※学習活動2では、前列の生徒が机を逆向きにして、互いに向き合うようにする。

## (6) 焦点を当てた授業の評価

### ア Bさんの授業の目標について

- ・教師の説明を聞いた後、文字の打ち方や大きさを変える「ピンチ」の仕方等を理解し、一人でタブレット端末を操作した。また、手順書に沿って活動を進めることにより、アプリの使い方を理解して暑中見舞いを作成した。(知識・技能)
- ・文面を考えるなどの活動に自信が持てないときに、教師に声を掛けてアドバイスを求めた。また、教師の意見を聞いた後、自分で考えて文面を打ち込んだり、文字の大きさなどを変えたりするなどして、通信面を完成させた。

(思考・判断・表現)

- ・「〇〇先生に書く」と相手を意識しながらデザインを選んだり、撮影した写真をスタンプなどで加工したりする活動に取り組んだ。自分が納得するまで繰り返しタブレット端末を操作しながら、時間いっぱい活動した。

(主体的に学習に取り組む態度)

## イ Bさんへの支援の手立てについて

- ・タブレット端末やアプリに興味・関心を持ち、アプリ内の定型文やイラストが分かりやすく、楽しめるものが多くあったことから、熱心に取り組んだ。手先に不器用さはあるが、タブレット端末の操作に関してはスムーズに行えており、「主体的な学び」の姿を引き出すことにつながった。
- ・教師や友達に通信面を見せたり、教師の質問に答えたりする場面を設定したことで、Bさんが工夫して作成し、自分が面白いと感じた部分を教師に見せるなど、「対話的な学び」の姿を引き出すことにつながった。
- ・教師の意見を基に、通信面を再考して、写真の位置や文字の大きさを調整する活動に時間いっぱい粘り強く取り組むなど、タブレット端末を使用したことで、何度もやり直ししながら取り組むことができ、「深い学び」の姿を引き出すことにつながった。また、暑中見舞いが完成した際には、達成感を味わう様子が見られた。

## 6 単元の評価

### (1) 単元目標について

- ・1名の生徒はタブレット端末を操作すること自体が目的となり、教師の直接的な働き掛けを必要としたが、どの生徒もタブレット端末の操作の仕方が分かり、暑中見舞いを完成させた。  
(知識・技能)
- ・友達が作成したのを見てまねたり、教師や友達の意見を聞いたりして、自分なりに考えて作成することが徐々に増えた。  
(思考・判断・表現)
- ・送る相手が分かり、「喜んでほしい」という思いを持って、試行錯誤しながら時間いっぱい取り組んだ。  
(主体的に学習に取り組む態度)

### (2) 単元を通した生徒の成長について

「〇〇に暑中見舞いを送る」という相手を意識した制作活動にしたことにより、生徒は意欲的に取り組み、回を増すごとに集中して活動するようになっていた。また、自分が取り込んだ写真を面白く加工するなど、イメージどおりに楽しく表現できたという達成感を得たことで、授業後の休み時間でも、タブレット端末を使おうとする姿が見られた。さらに、本単元終了後、教師に積極的に質問をしたり、友達の活動に注目したりすることが増え、他の授業場面でタブレット端末を使う際に、本単元で学んだタブレット端末の使い方を守ろうとする姿も見られた。

## 7 授業づくりを終えて

本単元は、転勤した教師からはがきをもらい、その返事を書くという流れで単元を構成した。はがきをもらう経験が少なかった生徒にとって、始めに自分が経験したことで、もらったときの喜びを感じることができ、そのことが、暑中見舞いを送る相手のことを考えることにつながった。また、生徒一人一人が集中して暑中見舞い作りに取り組む中で、友達が作成する様子に注目したり、教師とのやり取りの中で自分の考えをまとめたりの「対話的な学び」の姿を引き出すことができ、試行錯誤しながら取り組むことにつながった。

Bさんはコミュニケーションが苦手であったが、本単元では、積極的に教師に質問を

していた。自分で考えて行動する様子も多く見られるようになり、単元目標を達成することができたと考える。その他の生徒も、タブレット端末に対する興味・関心が高く、活動意欲を高めることができただけでなく、タブレット端末を使用することで、書くことが苦手な生徒が、自分の伝えたい内容に合う言葉を選んで作成したり、発音が不明瞭な生徒が、作成した文面を、自信を持って発表したりすることができた。生徒の苦手さを補う手段として、タブレット端末を用いることで、自分で考え、粘り強く取り組む姿を引き出すことができ、単元目標を達成することにつながったと考える。

本単元を通して、試行錯誤の手段としてタブレット端末を活用することができることや、タブレット端末を効果的に使用することで、生徒の困難さを軽減できることを実感した。今後も、どのような学びを引き出すために使用するのかなど、教師がねらいを明確にして、より効果的な活用の仕方を検討していきたい。